

書

評

北川雄光（監修）
宮澤光男，竹内裕也（編）

消化器内視鏡外科手術バイブル 動画で学ぶハイボリュームセンターの手技

袴田健一

弘前大病院長/弘前大大学院教授・消化器外科学・小児外科学

北川雄光先生監修，宮澤光男先生，竹内裕也先生編集による本書は，わが国を代表するハイボリュームセンターにおける消化器外科内視鏡手術の実際を，数多くの手術動画とわかりやすい解説で学ぶことのできるゼいたく手術書である．ほぼ全ての消化器領域の手術を網羅し，エキスパートチームで培われたノウハウが惜しげもなく記載されており，どの世代の外科医にとっても，日頃の疑問に答え，より良い手術に導いてくれる，真にバイブルと呼ぶにふさわしい待望の一冊である．

ページを開いてまず驚かされるのは，動画の多さである．手術操作ごとに細かく区分され，簡潔明瞭な解説文と連動して配置されている．さすがハイボリュームセンターで練られた動画だけあって，映像の精緻さ，撮像の角度，カメラワーク，尺の長さ，いずれも申し分ない．動画を見るだけで，手術手技のコツと技術習熟の到達点をイメージすることができる．また，動画視聴だけではわからないポート配置などはイラストで

具体的に表現されているため，型通りの冗長な解説が不要となり，内容の濃さとは裏腹に紙面構成がすっきりしている．質の高い動画とイラストが簡潔な解説文とリンクして配置され，記載分量や紙面構成が統一されているため，とても見やすく，読みやすい．おそらくは，左手で本を開き，右手でスマホを操作して動画視聴しながら利用することを想定されているのであろう．読者の目線や利用法への編者の配慮が強く感じられる．

もちろん，手術手技の細かい部分や使用する機器は施設により異なる．本書では，施設別，術式別に術者，助手，機器の配置とポート配置，準備する器具などの詳細が記載されている．ロボット手術についても，ポート配置や使用する鉗子がこまめに詳細に書かれている教科書はこれまでになかった．読者は，いながらにして全国のハイボリューム施設の手術を見学し，手術手技，手術室の人と機器の配置，さらにはチームプレーの実際を学ぶのと同様の経験を積む

ことができる．このことは，まさに監修者，編集者の意図するところである．

コロナ禍にあって，技能向上をめざす多くの外科医はハイボリュームセンターでの手術見学の機会を希望しながらも，困難な状況が続いた．本書は，そのような外科医の渴望に呼応して，手術見学で得られる以上の解説や動画を付加した手術書を提供することで，新たなスタイルの手術研鑽法を提案したと言っても過言ではない．コロナが明けて自由な交流が実現した暁であっても，むしろ本書の手術解説書としての意義は大きくなるものと期待される．多様な利用者層に対して，多様な環境で変わらず真価を発揮できる点においても，真のバイブルである．

●B5/頁 336/2023 年 3 月

定価：13,200 円

（本体 12,000 円＋税 10%）

[ISBN978-4-260-05052-4]

医学書院 刊